

名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2024年10月15日

学部・学科名 外国語学部・中国語学科

担当教員氏名 楊 紅雲

1. 区分	中期留学 ・ 語学研修 ・ 海外実習
2. プログラム名称	2024年度中国語学科夏期海外研修（企業研修を含む）
3. 渡航先国名	中国
4. 派遣期間	2024年8月3日（土）～2024年8月25日（日） 23日間
5. 派遣先教育機関名	北京外国語大学
6. 参加学生数	23名
7. 派遣目的	現地派遣による語学研修および中国進出日系企業研修
8. 派遣内容	<p>2024年度の海外研修は、前年度に続き現地派遣の形で実施することができた。プログラム内容は北京外国語大学における「語学研修」と日系企業における「企業研修」である。研修期間は計3週間、毎週平日の午前中に中国語の授業（計14回）を配置し、午後には企業研修（インターンシップ、計2回）と世界遺産の見学（計3回）を組んだ。</p> <p>「語学研修」は、4名の現地教員による「文法」と「会話」の授業を交互に組み合わせる形で編成した。学習効果を高めるため、学生通訳（現地の大学生、大学院生を2名）も手配したが、授業はすべて中国語のみで行われた。具体的にはベテランの現地教員の工夫により、本学指定のテキストによる学習をベースとしつつも、伝言ゲーム、中国語の歌、リズムに合わせて単語を覚えるレクリエーションなど、多彩な手法を織り交ぜた授業が展開された。そのため、参加学生は楽しく学習することができた。</p> <p>「企業研修」は、北京にある日系企業・イオン（8月13日）とキューピー（8月14日）の2社訪問という形で実施した。まず座学の形で、企業側担当者による説明（中国におけるビジネス展開の特色などについて）を聴講し、次いで案内いただきながら、店舗（イオン）・工場（キューピー）を見学した。その後、学生同士</p>

	<p>でグループ討論・検討を重ねた上で、感想や疑問点を企業担当者に述べ、それに対する企業担当者の回答・説明を通して、中国における日系企業のビジネスについて学習を深めた。</p> <p>また、中国文化・歴史の体験学習を目的として、北京にある有名な世界遺産（頤和園、万里の長城、故宮博物館）の見学を実施した他、伝統料理である北京ダックを賞味したり、伝統芸能（京劇）を鑑賞したりもした。</p>
9. 成果	<p>2024 年度海外研修の成果として以下の点が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語学研修：参加学生は日本の大学で学んだ中国語を実際に現地で使うことで、自身のレベルを確かめることができた。又同時に、現地でしか学ぶことができない、教科書に載っていないような言い回しや単語も学ぶことができた。また研修期間中の語学授業はすべて中国語のみで行われたため、学生は集中して受講する力とリスニング力を鍛えることができた。以上により、中国語力が確実に向上した。研修最終日の試験では学生全員が優秀な成績を取り、円満に修了した。 ・企業訪問：参加学生はグローバルなビジネス展開に対する認識と理解を深めることができた。北京にある有名な日系企業（イオンとキューピー）におけるインターンシップでは、学生は普段は見ることのできない場所を見学し、聴くことのできない話を聞き、日系企業の中国市場におけるビジネス戦略を学ぶことができた。この体験を自己の就職活動に活かしたいと考えている学生が多くいることが、研修後の学生レポートから見て取れた。 ・異文化体験：参加学生は中国や中国文化に対する関心を深めた。これは、帰国後の本学における中国語学習に対する意欲向上に繋がる。実地研修ということもあり、学生たちは真剣に現地の授業に取り組んだだけでなく、万里の長城や故宮博物館、頤和園の見学にも積極的に参加した。また、買い物や外食、交通移動などの自由時間に積極的に中国人と会話をし、身振り手振りを交えながら懸命にコミュニケーションを取る場面が多く見受けられた。実際に中国人と関わり、中国文化を体験したことで、学生は様々な刺激を受け、学習に対する意欲を高めたものと思われる。
10. 備考	

以上

2024年度 中国語学科 夏期海外研修レポート

提出者：棚原 一綺

所属：中国語学科 4年次

今回の夏季海外研修を通して様々な学びがありました。

1つ目は中国語です。日本にいる時とは異なり完全に中国語で中国語を勉強できる環境は、私の中国語能力を向上させる大きな要因になったと思います。授業では、私たちが理解するまで丁寧に簡単な文法や単語を使って説明してくれたので楽しく勉強をすることが出来ました。

2つ目はインターンシップです。中国に進出している日系企業に訪問させていただき企業側がどのような戦略でやってきたのか、中国と日本の共通点や相違点は何があるのか等、普段の授業では知ることができない貴重な意見を聞くことが出来ました。

3つ目は中国の生活についてです。これについては留学に行く前から授業で知ることができていましたが、実際に行くことでどれだけ中国が発展しているのか肌で感じる事が出来ました。特に驚いたのは携帯1台で買い物や地下鉄、自転車にまで乗ることが出来る点です。QR決済が進んでいることで生活が楽になることを実感することが出来ました。

今回の夏季海外研修を通して中国がさらに好きになり中国語を勉強するモチベーションにも繋がりました。これからももっともっと勉強を頑張っていきたいです。

2024年度 中国語学科 夏期海外研修レポート

提出者：大西 舞帆

所属：中国語学科 2年次

夏期海外研修は、私にとって非常に有意義であり、貴重な体験がたくさんできた一ヶ月でした。北京に到着し、初めは生活習慣や食習慣といった日本との違いに驚いたとともに、なかなか慣れることができませんでした。中国に滞在しているため、当たり前ではあるのですが、耳に入ってくる言葉が全て中国語なことにも初めは違和感がすごくありました。ネイティブの先生の授業についていけるかも非常に不安でした。最初の方の授業では聞き取れなかったことも多かったのですが、だんだん聞き取れるようになっていきました。先生方の説明は非常に分かりやすく、以前あまり理解していなかった文法も理解することができました。また、授業で習った単語をその日の日常生活で活かせることも非常に多くありました。ほぼ毎日、授業後は友達と街に出て遊びに行ったり、買い物をしに行ったり、夕食を食べに行ったりしていました。その際に出会った現地の方たちとの会話ややり取りが、リスニング力やスピーキング力といった中国語でのコミュニケーション能力の向上に大きく繋がったと感じています。休日に、大きなショッピングモールに遊びに行った際、私たちに喋りかけてくれた一人の女の子がいました。その子は日本語を勉強していて、私たちから日本語が聞こえてきたから話しかけてくれたそうです。その子とは連絡先を交換し、別れてからもお互いの国について話しました。中国に来て、中国の方との関わりができて非常にうれしいです。

インターンシップでは、実際に日本人の方が中国で活躍されている話を聞き、言語による可能性をすごく直に感じました。そのため、自分ももっと話せるようになりたい、言語能力を向上させて、卒業後、世界で通用する人になりたい、と強く思いました。

今回の海外研修では、万里の長城をはじめとする様々な中国の歴史ある場所を訪れたことで中国の歴史に対する認識を深め、約一ヶ月の中国での生活を経たことで文化や習慣を知ることができました。これらは中国に来たからこそ得ることができた大切な財産だと思います。この経験を活かし、語学力の更なる向上のため、勉学に励みたいと思います。

2024 年度 中国語学科 夏期海外研修レポート

提出者：後藤 夏粋

所属：中国語学科 2 年次

現地の教師たちは非常に親切でフレンドリーな方達であったため、毎授業発言がしやすく、分からないところがあった時も気軽に質問できる環境だった。日常生活で使う場面が多々ありそんな単語や文法を毎授業で学んでいたの、授業後に外出し、現地の方々とコミュニケーションをとるときだったりお店に入ったりした際に「この単語(または文法)さっき授業で習った内容だ!」と、その日のうちに街中で復習できることがとても多かった。

中国は日本に比べかなりタクシーの値段が安いのでこの 3 週間はタクシーを頻繁に利用していた。タクシーの運転手さんと会話が弾むことも多々あった。一度日本語が少しだけ通じる運転手さんに会った。趣味で日本語を勉強しているらしく、私たちが中国語を学びに来た学生であることを伝えると、運転手さんは私たちに中国語を教え、私たちは運転手さんに日本語を教えるという移動時間になった。とても有意義な時間であり勉強にもなった。

やはり現地の方とたくさん会話をしたことで語学力が向上したと思う。北京の人々はフレンドリーな人が多かったため、言葉を交わす機会がたくさんあり、勉強になった。

インターンシップで、18 年間仕事で中国に住んでいる日本人のイオンモールの責任者の方への質問会があった。学生から「他言語を学ぶことは就活で有利になるのか」という質問が出た際に、「語学力よりもあなたが何をしたいかが 1 番大事。語学力はツールである。あなたがしたいことが見つかった時、あなたのしたいことをツールとして手助けしてくれるのが言語である。」と回答していた。自分自身の言語への考え方が変わった瞬間だった。自分が卒業後やりたいことが決まった時にツールとして中国語が出せるようにもっともっと中国語の習得に励もうと思う。

2024年度 中国語学科 夏期海外研修レポート

提出者：金田 啓慈

所属：中国語学科 1年次

今回の北京、及び北京外国語大学での海外研修を通して私は中国語を学ぶ方法やグローバルに人とかかわっていくことにおいて新たな視点を手に入れることができました。今回の研修に参加するまで海外へ行ったことがなく、中国語ネイティブの人と話すことも少なかったため、あらゆる瞬間で新鮮さを感じていました。特に、授業が中国語だけで行われるのは私にとって初めてだったので自然とリスニング力が鍛えられました。ですが、学生通訳や学校外でのお店やタクシーの方とのやりとりの場面は授業とは様々な点で異なり、周囲の環境音や話す速度、先生とは違い発音がはっきりされないことなどによって相手の話していることが聞き取れないことも多々ありました。中国語力の上達以外にも、中国の文化についてよく知ることができた研修でもありました。日本とは特に生活のルールが異なるように感じました。その理由は人口の多さかなと考えることもありこの研修を通じて日本にいる間には得られなかった視点が得られたと感じます。授業では中国で生活する上で使われる単語が多く紹介され、そこで日本と中国の違いについても、先生が話すことが何度かあり、それも現地で授業を受ける醍醐味の一つだと感じました。今回の研修で手に入れた視点は、将来企業に就職した際も自分の武器になると感じました。むしろ積極的にそれを生かせる企業を志したいと思いました。